

(様式)

情報学委員会分科会の設置について

分科会等名：安全・安心社会と情報技術分科会

1	所属委員会名	情報学委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	情報システム・情報インフラのセキュリティとディペンダビリティを保持することは喫緊の課題であるが、これらは従来独立に研究開発されてきた。日本学術会議においては両分野を融合し新たな社会情報基盤を構築することを目指し、セキュリティ・ディペンダビリティ分科会を設置し、提言の作成やシンポジウムの開催など、多様な活動を展開してきた。 情報社会基盤の普及は我々の経済活動の効率を大幅に改良したが、詐欺サイト・ウィルスメール、銀行勘定系のシステムダウン、個人情報流出問題などの社会全体に及ぼす影響も大きく、さらなる情報インフラの安全性・信頼性の確保は重要な課題といえる。また、高度情報化では大量の電子化されたデータの処理であるデータマイニングの経済、社会、科学技術の発展への大幅な寄与が期待されているが、そのデータの完全性の確保は必須技術である。さらに、2011年3月の東日本大震災では、情報システムの一つであるソーシャルメディアが安全確保や安否確認のインフラとなり、情報システムの重要性が再認識された。一方、医療や住民基本台帳などは電子化されているにもかかわらず、その震災で紛失したデータ修復に多大な時間・労力を要し、情報社会基盤の可用性の重要性もあらためて認識された。 このような高度情報化社会において、セキュリティ・ディペンダビリティ両分野で要素技術を磨き上げるとともに、これらの融合、土木・建築・電力・ガスなどの社会基盤技術との連携、法律、社会制度、経済、心理などを総合した検討が必要である。本分科会では、このような広い観点から、日本学術会議として検討すべき課題の抽出・分析を行うとともに、この分野のあり方に関する意見を交換し、政策や技術開発、更には社会制度や初等・中等教育等に関する提言を行う。
4	審議事項	・ 社会の安全・安心に必要な情報科学技術に関する分析と方向性の提示 ・ 安全・安心情報社会に関わる新たな融合学術分野の分析と方向性の提示 ・ その他、本分野の推進に関する課題の抽出、提言
5	設置期間	時限設置 年 月 日～ 年 月 日 常設
6	備考	